

令和 2 年度 城山中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤とし、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる日本人の育成を目指す。

(2) 具体目標

- 1 心身ともに健康で勤労を尊ぶ生徒
- 2 基盤となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲を持つ生徒
- 3 礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- 4 主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- 5 文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

(3) 生徒の信条

「強く、賢く、美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、すべての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、健康的な生活習慣の形成による豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに組織的対応による職員の負担軽減と業務の効率化を図る。〈教職員〉
- (3) ○義務教育の連続性を重視して小中間の連携強化を図り、地域人材・地域教材を有効に活用して地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。〈小中一貫教育・地域学校園〉

[城山地域学校園教育ビジョン] ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

4 教育課程編成の方針

関係法令、県学校教育振興ビジョン、市学校教育スタンダードや指導の重点に基づき、生徒が社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。また、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等との連携を図った、地域に根ざした豊かな体験活動を教育課程に位置づける。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】○一人一人のよさを認め、励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実、地域の教育力、小中の連携を生かした教育活動の推進、業務の効率化等による働き方改革の推進
- 【 学 習 指 導 】○「主体的対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実、読解力向上に向けた読書活動の充実、学習習慣の定着を目指す指導の充実、○主権者教育の推進
- 【 児 童 生 徒 指 導 】 自己有用感を味わえる教育活動の推進、規範意識の醸成、耐性を育む指導の充実、○認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止、問題行動発生時の迅速な組織的対応、・特別の教科道徳の充実
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開、健康（感染症対策）と食の安全確保のための衛生管理、施設点検の充実、栄養教諭を核とした望ましい食習慣の育成、○家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 学力調査等の結果を分析し、生徒の学習における課題を明確にした上で、ワークシート等を工夫し、難易度の高い課題に取り組もうとする意欲を引き出すなど、個々の能力を伸ばしていくための方策を考え、全教職員で共通理解を図って取り組む。 ② ふれあい文化教室や大谷石加工体験学習などの外部講師による授業や、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業などにより、生徒の思考力、判断力、表現力等を高める。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.0%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・肯定的回答が高かったのは、授業中にホワイトボード等を活用した話し合い活動等をたくさん取り入れていた結果だと思われる。ただ、話し合いの中で意見の根拠を述べたりするなどの表現力の育成は不十分である。次年度は、より質の高い話し合い活動ができる手立てを講じていく。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 冒険活動教室や職場体験学習等の、人・自然・社会との関わりを通じた体験活動の充実を図り、豊かな心を育成する。 ② 道徳、学級活動の時間を中心に、お互いの良いところを見つけ、認め合う活動を意図的に取り入れるなど、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に出るような支持的な雰囲気を醸成する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.6%で昨年度より4.6ポイント上回り、目標数値を超えた。 【次年度の方針】 ・道徳、学級活動の時間を中心に、相互に認め合う場面を意図的に作りながら指導していくことで、お互いに尊重し合う心を育成する。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 定期的に、服装・身だしなみチェックを行い、生徒自身で自分の生活を振り返らせるとともに、学年集会等で全体に対して指導する方法を工夫し、自己管理能力の育成を図る。 ② 職員間で共通理解を図り、全生徒を全職員で指導する体制を確立する。また、日ごろから全教職員による目配りを行い、きまりやマナーを適時適切に指導する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94%で数値指標を上回り、昨年度と比べて7.1ポイント上がった。 【次年度の方針】 ・定期的な、服装・身だしなみチェックを行う際に、マナーにならないよう生徒への意識付けをしっかり行う。 ・日ごろから全教職員による目配りを行い、きまりやマナーを守れなかった場合は、すぐに指導をする。そのために、職員間で共通理解を図り、全生徒を全職員で指導する体制を確立していく。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。	① 地域学校園内の小学校や地域協議会と連携をした「あいさつ運動」を工夫・充実させ、さらに活性化させる。		【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は97.2%であり、数値指標を上回っている。地域住民の肯定的

【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上	② あいさつ運動を生徒会活動に位置付けて計画的に行い、定着させるとともに、良い事例を称賛し、学校内での教育活動だけでなく、校外活動でもしっかりとあいさつができるよう一人一人の意識の高揚を図る。	B	回答が90%に下がったものの、目標指標は引き続き上回っている。 【次年度の方針】 ・地域学校園内の小学校や地域協議会と連携した「あいさつ運動」を、生徒会活動に位置付けて計画的に行うことでさらなる定着を図りながら、校外活動においてもしっかりとあいさつができるよう、一人一人の意識の高揚を図る。
A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 学校行事や部活動などにおける困難を乗り越える体験を通して、「褒めて伸ばす」「一人一人を生かす」指導を継続するとともに、苦手意識や不安感等がある生徒には個に応じた目標を設定させたり、自分のできる役割を考えさせたりすることで、達成感や自己有用感を味わわせ、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は84.0%で数値指標を1ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・生徒の活躍する場を作ることによって、褒める機会を増やし、自信をもたせることで、自己肯定感を育む。また、「苦手」「不安」としていることが明確な生徒に対しては、目標を考えさせ、それに向かって頑張る態度を育てる。
A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育の授業で、補強運動を工夫して取り入れ体力の向上を図る。 ② 運動に対する意識の向上と運動習慣の定着のため、元気っ子チャレンジへの参加を継続する ③ 交通安全教室、避難訓練等を通して、適切な意思決定や行動選択ができるようにする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は昨年度より4.2ポイント上昇し、95.7%となった。 【次年度の方針】 ・引き続き継続した指導を全職員で心掛け、生徒の健康や安全を図っていきながら、感染症対策にもさらなる重きを置いて指導していく。
A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 A5と同じ	① 学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」や、道徳C(12)「社会参画・公共の精神」の学習等を工夫し、自分の将来の夢や進路等について考えさせ、社会貢献への意欲を高める。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は84.0%で数値指標を1ポイント下回っている。 【次年度の方針】 ・学級活動や清掃活動等あらゆる機会をとらえて、社会貢献への意欲を高めるとともに、スキル学習（電話がけ・話し方・調査したことのまとめ方・PC・もてなし方など）をより充実し、自信を持って校外の活動に出られるように指導していく。
A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 英語の授業でALTを効果的に活用するとともに、給食の時間にALTが教室で食べることなどにより、コミュニケーションを図る機会を増やすとともに、積極的に話している場面を見た教員が認め励ますなどして、英語力を向上させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.2%と数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・授業だけでなく、休み時間などにも英語を使ってALTと積極的にコミュニケーションをとる機会を充実させる。
A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、環境や地域文化財、産業、福祉等について学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。 ② 朝の会や教科等の授業の中で関連する内容を学ぶ際に、宇都宮や地域の行事や活動を積極的に紹介する。	B	【達成状況】 - 生徒の肯定的回答は80.9%であり数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・ふるさと学習の学年テーマに沿った学習が行えるよう、協力していただける団体や人材の発掘に努める。 ・宇都宮大学の授業を活用し、生徒が郷土に対して

	③ 保護者の肯定的回答の数値が62.7%と低いので、生徒の活動について各種便りや保護者会等での情報発信に努める。		して愛情や誇りをもてるよう、宇都宮や地域の行事や活動を積極的に紹介する。 ・保護者の肯定的回答の数値が62.2%と低いので、生徒の活動について各種便りや保護者会等での情報発信に努める。
A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① タブレット型パソコンを授業に取り入れる方法を研究し、教室でのグループの話し合い活動などに積極的に活用する。 ② 図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、計画的に図書等を学習に活用する機会を設ける。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は74.8%と数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・次年度は生徒一人一人にタブレットが支給される。これまでの保健体育科や総合的な学習の時間における実績を生かし、さらなる活用を図る。また、図書室の利用も昨年より増えており、次年度も取組を継続させていきたい。
A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 A2と同じ	① 城山あったか活動の実施見合わせを補完する道徳等の学習や外部講師による認知症サポーター養成講座を実施することなどを通して、高齢者への理解を深め感謝やいたわり敬う心を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.6%で数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・高齢者の苦労や高齢者福祉施設の課題、高齢化社会の課題等を事前に調べ、自分のできることをシミュレーションさせた上、城山あったか活動や認知症サポーター養成講座に参加させたい。
A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%以上	① 教科や領域の学習における「持続可能な社会」に関係する単元において、積極的に話題にすることで、「持続可能な社会」とはどういうことかを理解させるとともに、専門委員会などの活動を通して何をするができるか等を具体的に考えさせ、関心を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は71.2%で、数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・授業中も話題になっており、「持続可能な社会」への関心は高まっているが、どのような活動をしたらよいかはまだ見えていない。次年度も各授業や専門委員会などで具体的な活動について考えさせたい。
B1 生徒は、健康の維持増進に気を配っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 保健体育委員が中心となって、手洗い・うがいチェックの方法を工夫して実施するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全職員が手洗い等の指導を徹底する。 ② 保健便りに、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を掲載するなど、内容の工夫・充実に努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.8%と、数値指標を上回った。新型コロナウイルス予防の意識が高かったことが要因と考えられる。 【次年度の方針】 調査により、ハンカチ等で手を拭く習慣が低下していることから、全職員で継続した指導にあたる。
B2 生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	① 日課変更や各種アンケート等の実施による朝の読書の時間のカットを極力減らし、読書の時間の確保に努め、落ち着いた雰囲気できちんと取り組むことができるようにする。 ② 外部講師による読み聞かせを引き続き年間予定に組み込む。 ③ 図書委員による本の紹介活動等の読書の楽しさを共有する機会を継続、充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は80.2%で、昨年度より1.3ポイント上昇したが、数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・昨年度に比べ、朝の読書の時間がカットされることがだいぶ改善された。図書委員による活動も十分に行われ、図書室の利用も増えてきており、昨年度の78.9%より上昇した。令和2年度は新型コロナの影響で実施できなかった外部講師によるブックトークを再開させるなどして、読書活動の充実を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 生徒指導教育相談部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努め、特別支援教育コーディネーターを中心に関係職員と連携を図り、適切な支援を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は97.2%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 生徒指導教育相談部会等、各種会議において、生徒の実態把握・情報共有に努めるとともに、特別支援教育コーディネーターを中心に関係教職員等と連携を図り、適切な支援を行う。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上	① あらゆる場面でいじめが許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間を利用していじめ問題を扱った道徳の授業を実施する。 ② いじめについてのアンケートを実施するとともに、全職員で生徒の行動を見守り、情報の共有化を図りながら、適切な指導や支援を行う。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.4%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・あらゆる場面でいじめが許されない行為であることを引き続き指導する。全職員で生徒の行動の見守るとともに、いじめについてのアンケート等の情報の共有化を図りながら、適切な指導や支援を行う。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 授業や行事、普段の学校生活の中で、一人一人が活躍できる場面や役割を用意し、その取組の成果を認め、励ます指導を行い、自己有用感・自尊感情を育む。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.3%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・本校の重点目標である「褒めて伸ばす指導の充実」を継続する。授業や行事、普段の学校生活の中で、一人一人が活躍できる場面や役割を用意し、自己有用感・自尊感情を育む。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 A13と同じ	① 日本語での会話や読み書きが十分ではない外国人生徒が在籍したときは、日本語指導及び学校生活適応について支援する。	B 【達成状況】 ・本年度、該当する生徒の在籍はなかったが、A13においては97.2%と数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・日本語での会話や読み書きが十分ではない外国人生徒が在籍したときは、日本語指導及び学校生活適応について支援する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 生徒一人一人が生き生きと活動し、学校生活に満足感を得られるよう、「褒めて伸ばす指導」を推進する。 ② 学校行事や生徒会活動を通し、生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は86.9%と、数値目標を3.1%下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・新型コロナへの対応が続く状況であっても、なるべく多くの生徒が活躍できるように、活動の場の設定を工夫する。また、褒めて伸ばす指導を継続し、生徒一人一人が生き生きと活動し、自己肯定感を高める。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。	① 「ねらい・目標の明確な提示」「振り返り活動の充実」「自分の考えを書いてまとめる等、思考力・判断力・表現力の育成」に重点を置いた授業改善に積極的に取り組む。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.9%で数値目標を下回っている。 【次年度の方針】 ・授業のねらいや振り返り活動については

	【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	② 単元末テストや小テストを計画的に実施するとともに、生徒がワークブック等に意欲的に取り組める方策を検討し、基礎・基本の定着を図る。		生徒にも浸透してきた。ただ、判断力という点においては必要な情報を判断して選ぶ力が弱く、表現力や読解力も必要とされるところである。 ・学力をつけることの必要性については、意識はさせているが、なかなか成果として出ていない。次年度も基礎・基本の定着を図りながら、生徒が受け入れ易いプログラミングなどで、社会につながる学習であることを気づかせたい。 ・一人一授業を継続し、お互いのアイデア等を研究していく。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	③ 「学力を付けることの必要性」に対する生徒の意識の差が大きいことなどから、授業の中で教科等の学習が社会につながっていることに気づかせ、学ぶ意義を理解させるよう努める。		
		① 学校の組織力を強化するため、校務分掌や委員会所属等に配慮し、教育活動の充実を図る。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は97.2%であり、数値指標を上回っている。お互いに支援し合い、コミュニケーションを密にしようという意識が高い。 【次年度の方針】 ・与えられた校務分掌等において縦横の連携を意識しながら、有効的な組織運営を行う。 ・朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努める。
		② 朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努めるとともに、担当教員を中心として、コミュニケーションを図り、計画的に情報交換の機会を設ける。		
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① ミラ임による出退勤時刻の入力を徹底し、勤務時間を意識した働き方を実践する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答は86.1%であり、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・ミラ임への出退勤時刻入力を徹底し、勤務時間を意識した働き方を目指す。 ・市の部活動方針の運用を徹底する。 ・教育課程の編成は、業務の効率化、精選の視点も考慮するとともに、行事等の計画において、業務内容の偏りがないような分担に努める。
		② 市部活動方針に基づき、休養日等を適切に設定し、運用を徹底する。		
		③ 各種団体からの研修会参加依頼やコンクール等への出品依頼等を精選する。	A	
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① 小中一貫教育主任、部長、分科会長を中心として、小中の教職員間のよりよい連携・協力体制を築く。		【達成状況】 生徒の肯定的回答は68.6%で数値指標を22.4ポイント下回っているが、教職員と地域住民は100%、保護者は88.8%である。新型コロナウイルス感染症対策のため、例年と比べ児童生徒が直接連携した取組がほとんどなかったためと思われる。 【次年度の方針】 ・小中が連携した取り組みに加え、小中の教職員の連携についても各種たよりや保護者会等で情報発信に努めるとともに、朝の会、帰りの会等で生徒に情報提供をする。 ・児童生徒の作品の交流やパソコンでの交流も検討していく。
		② 小中が連携した取り組みに加え、小中の教職員の連携についても各種便りや保護者会等で情報発信に努めるとともに、朝の会、帰りの会等で生徒に情報提供をする。		

	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 地域の特色である大谷石文化や大谷石、先人の生活等について学ぶ、大谷石加工体験学習を実施する。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は88.0%で数値指標を3.0ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・担当学年、地域連携教員を中心に、大谷石加工体験学習を始めとする郷土学習や宇都宮学を充実させるとともに、「ふるさと学習」を継続する。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 A22と同じ	① 外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ② 地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努める。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答は88.0%で数値指標を3.0ポイント上回っている。魅力協による交通安全標語の表彰・看板設置、ギャラリーの地域の方の作品展示などの取組が生かされている。 【次年度の方針】 ・学年の実態や意向を踏まえ、外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用の防止教室や歯科講話・性教育講座・デートDV、SNS等の被害防止講座、認知症サポーター養成講座等を検討・実施する。 ・地域連携教員、地域コーディネーター、魅力協と連携・協力しながら活動内容を検討し人材の発掘に努める。 ・魅力協の活動の周知を図る。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は適切に処理する。	B	【達成状況】 ・昨年度より4ポイント上昇し、達成状況は100%となった。 【次年度の方針】 ・引き続き継続した取組を心掛け、全職員で学校安全に配慮していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 A10と同じ	① タブレット型パソコン等、ICT活用の研修を定期的に行い、学習の充実を図られるようにする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は74.8%と数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 ・次年度は全生徒にタブレットが配付されるため、その管理と学習活動における活用が円滑に行えるよう、研修の充実を図るとともに、効果的な活用法の集積と周知に努める。
本校の特	B3 地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身についている。	① 城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考えようとする態度を育てる。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答は81.8%で数値指標を8.2ポイント下回っている。新型コロナウイルス感染症対策のため、地域でのボラ

色 ・ 課 題 等	【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	② 地域の行事やボランティア活動等 について生徒に情報提供し、積極的な参 加を促していく	ンティア活動中止、城山あったか活動中止、 ふるさと学習縮小などの影響もあると思わ れる。 【次年度の方針】 ・実態を踏まえて、城山あったか活動やふる さと活動の内容・方法・時期等について実施 方法等を判断する。 ・地域の行事やボランティア活動等につい て生徒に情報提供し、積極的な参加を促し ていく。
-----------------------	-----------------------------	--	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 数値指標については、教職員、保護者、地域住民は全て上回っており、概ね目標に達したと考えられるが、児童生徒は上回っている項目とそうでないものが約半数ずつとなっている。
- ・ 市内中学校平均との比較から考えると、ほとんどの項目において市平均を上回っており、他校と比べ充実した教育活動が展開されていると考えてもよいと思われる。
- 特に「地域学校園」「家庭・地域・企業等との連携」「宇都宮のよさ」の項目が教職員、保護者、地域住民、児童生徒すべてにおいて市平均より上回っている。日本遺産である大谷石文化のホームグラウンドである城山地区の学校として、例年実施している「ふるさと学習」「あったか活動」「大谷石加工体験」等、地域に根付いた活動が本校の強みである。
- 今年度は、数値指標、前年度比較とも、「地域貢献」や「小中一貫・地域学校園」の項目が下がっている。城山あったか活動の中止や、小中一貫教育活動の制限が主な要因であると考えられる。
- ・ 前年度の比較から考えると、教職員や保護者の評価は上がっているのに対し、反比例するように児童生徒の評価について下がっている項目が多く見られる。これは、教職員と保護者は、コロナ禍の現状ながら可能な範囲で教育活動に尽力しているという思いを強く抱いている一方、児童生徒は、例年行っている活動を十分に行うことができなかったという思いを感じていることなどによるものと考えられる。

7 学校関係者評価

- ・ 地域住民からの「あいさつ」の項目が、指標は上回っているものの昨年度比で10ポイント減となった。しかし、生徒たちは、例えば散歩中でも元気なあいさつをしてくれており、とても気持ちが良い。
- ・ ボランティア活動等、生徒たちは手伝いをよくしてくれている。
- ・ ジェンダレス制服が生徒発案であったり、交通安全標語に積極的に取り組み立て看板化されたりと、生徒は前向きに頑張っていた。
- ・ 「持続可能」の項目は、指標には届かなかったものの、教職員による評価が高い。機会をとらえて適切に指導している様子がうかがえる。
- ・ コロナ禍の中で、生徒も教師も最大限の努力を以て、とても頑張っていたと感じる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ アンケートの結果から、令和2年度の学校経営については概ね良好であり、目指す生徒像に迫る教育を推進できたと考えられる。
- ・ 一方で、令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止の対応のため、活動が制限されたことによる評価不足が目立っている。また、生徒のみならず、学校全体の活動が停滞せざるを得ない状態になっており、児童生徒の結果についてはその傾向が顕著であることから、例年との比較は難しい。しかし、コロナ禍であったとしても、生徒にとっては貴重な中学校生活の1年間であることから、現状で最大限の教育効果を生み出すために、教職員、保護者、地域住民が一体となり、有効な教育的活動を展開していく必要がある。
- 特に、城山あったか活動や小中一貫教育活動については、再開を目指しつつ、仮にコロナ禍が続く場合には、それに変わる手立てを模索しながら、充実した教育活動を展開していく。

